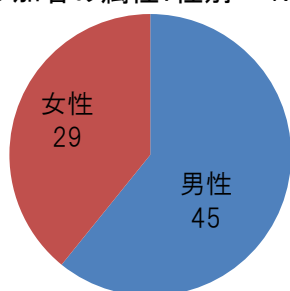


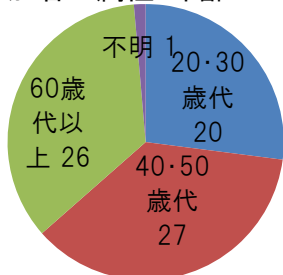
参画協働フォーラム アンケート結果について

1 参加者の属性

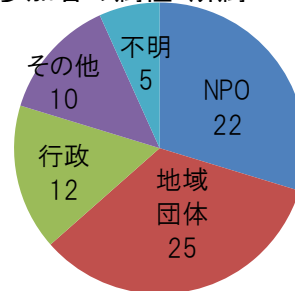
参加者の属性:性別 N=74



参加者の属性:年齢 N=74

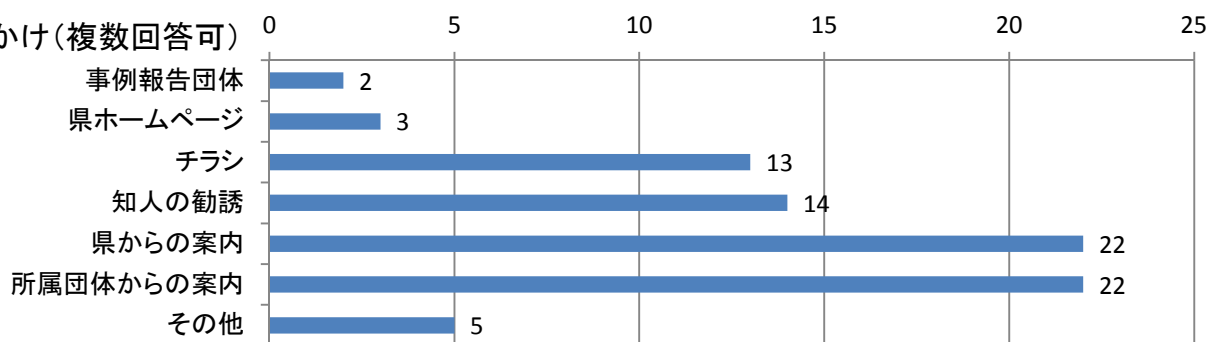


参加者の属性:所属 N=74



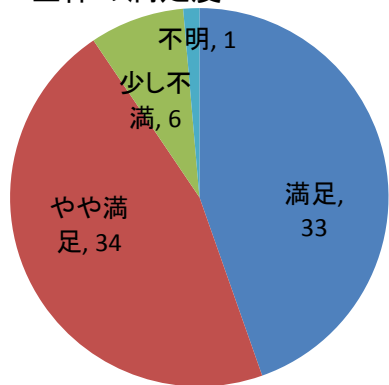
2 フォーラム参加のきっかけ

参加のきっかけ(複数回答可)



3 フォーラムの満足度(全体の満足度、運営方法の満足度)

全体の満足度 N=74



その他のご意見

- ・発見と発信、今一度見方を変えて考えるきっかけになった。
- ・これからの活動のヒントをもらった。
- ・継続的にフォーラムを開催してほしい。
- ・元気で豊かな地域社会を築いていくための地域づくり活動をどうすべきかのテーマが聞きたかった。

講演のご感想

- ・とても聞きやすく新鮮だった。質の高さに感心した。
- ・ワークショップについて、新たな視点を学べた。今まで考えて活動していた部分ととても共鳴するものがあった。
- ・今後の取り組みを楽しく進めるための参考となった。
- ・働き方や組織のあり方、収入・支出等で気付きが多く勉強になった。

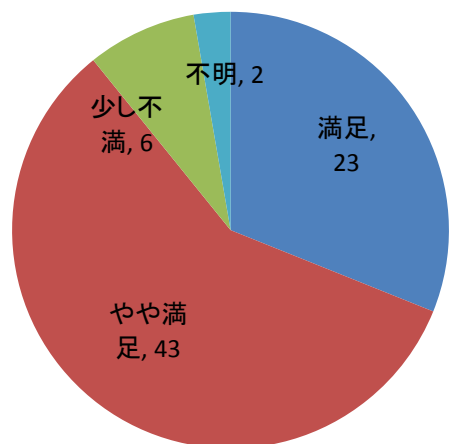
分科会のご感想

- ・1つ1つがおもしろいテーマだった。
- ・参画と協働は分野や年齢は関係ないと思った。
- ・ファシリテーターの進行がよく、議論も巧みにまとめられ、感銘を受けた。
- ・様々な職種の方がこれだけ多く集まり、意見交換できたことがすごく良い。
- ・各組織のリーダーが集まり、具体的な事例があり、次に生かすことができると強く思い、共感できた。
- ・発表事例や意見交換により、各地域の課題、NPO、地域団体、行政などそれぞれの組織が抱える課題が把握できた。
- ・これからのNPOの在り方を学ぶことができた。
- ・様々な取組にふれながら参画と協働の基礎(基本)について学べた。
- ・実務に精通した多彩な参加者から意見が聞けた。
- ・「やる気」を持たせるリーダーシップについて、新しいヒントを得た気がする。
- ・横つながりができて良かった。
- ・現場で苦労されてコミュニティビジネスを継続している知恵や動機が参考になった。

ご指摘

- ・内容がNPO寄りになっていたようにも感じる。
- ・事例ベースの各事業発表会となってしまう、発言権が全員に回らなかったことが気になった。
- ・分科会の時間が短く、議論を深めにくかった。もっと色々な分科会に参加したかった。
- ・分科会のテーマ設定をもっと絞る必要がある。行政の参加がもっと必要。

運営方法の満足度 N=74



運営方法のご感想

- ・ファシリテーターの方が色々な手法でうまく分科会をまとめていた。
- ・フォーラム全体の流れがスムーズで、時間調整もしっかりしていた。
- ・講演→分科会→報告の流れがあることで、積極的に参加でき、参加したという満足感がある。
- ・分会会の質疑応答で発表者と参加者が一体となった点や意見交換で論点を深めた点が良かった。
- ・全体会で各分科会の内容のフィードバックや発表者同士の質疑があり、他の気になっていた分科会の内容を知ることができた。
- ・分科会が少人数で参加しやすく気軽に発言しやすく良かった。
- ・資料が事前にまとめられており、わかりやすく地域活動について学べた。
- ・いろんな人との関わりや、出会い、コミュニケーションが嬉しい。
- ・これだけの方々をまとめられるコトに感嘆した。
- ・非常に良い流れだと思う。交流会もあり素晴らしい。
- ・全体討論がおもしろかった。
- ・NPO・地域組織双方の話が聞けてよかった。

ご指摘

- ・全体会の報告時に、分科会のホワイトボード内容を表示した方が良いでは。
- ・分科会が9つは多すぎる。
- ・全体会＋分科会の組み合わせは良いと思うが、「更なる展開」の部分が弱かった。
- ・会の冒頭で20年経ったNPOや県の協働施策の課題を主催者として「解題」などのかたちで、提供・共有化しておいた方が議論しやすかった。
- ・参加者個々から意見を聞くシステムの方が良かった
- ・若い方の意見をもっとききたかった。
- ・選んだ分科会が思っていたのと違った。
- ・他の分科会が同室で集中しにくい。また発言が聞き取りにくいことがあったので、分科会ごとに部屋を分けた方が良い。
- ・分科会の時間が足りず、参加者全員が発言できなかった。
- ・もう少し時間があつた方が、議論を深めることができる。
- ・発表時間が短く本当に伝えたいことまで発表できなかった。
- ・タイムキーパーがいれば、時間配分がもう少しうまくいったかもしれない。
- ・休憩時間を長めに設定し、時間が押せば休憩時間を短くし帳尻を合わせるなど工夫が必要である。
- ・分科会の際の移動が大変だった。

3 参加者からのメッセージ

「若い方々がなかなかボランティアに参加して頂けない中、楽しい活動が広がるよう努めてきました。同じように活動されている人がたくさんいて、とても心強く思いました。」福永君江(神戸市・地域団体)

「ボランティアとして地域別なりテーマ別なりでこれだけやる気のある方が集まって来られるだけで兵庫県の未来は明るいと思う。若い人のアイデアをどんどん出して参入してもらえたらありがたい。」60代男性(神戸市・地域団体)

「次の世代の人たちの議論もあつたらおもしろいのではと思いました。“次の”という意味で。」30代男性(高槻市・NPO)

「普段はお会いすることのない方々の意見や考えを聞けてとても勉強になりました。」20代女性(宝塚市・一)

「市民活動の中で様々な立場があれど、考えていること、思いは同じです。」玉田恵美(姫路市・NPO)

「次世代の担い手を育てることの重要性が益々増大している中、各地域の活動の実例、実践を広く集めて情報発信できるシステム・仕組みが重点施策と痛感します。」小川薫(神戸市・地域団体)

「兵庫県には魅力のある[人]が暮らしています。一人ひとりの技を県民みんなで共有し、地域の課題解決に役立つような試みをしてはいかがでしょうか。そして、その暮らしぶりを丁寧に協力して情報発信すればきっと兵庫県は選ばれる！」井上あい子(明石市・NPO)

「協働のためには、目的や課題を共有することが重要ということで、今後も多くの方々とお話しをして、理解しあえるように努力したいです。」20代女性(神戸市・行政)

「兵庫県は市民意識が高い人が多く、今回のようなフォーラムを通じて、ネットワークが広がっていけば、地域が元気になってくるのではないかと思います。」三坂友章(宝塚市・NPO)

「参画と協働についての共通理解、まちづくりの課題の共有が促進できるよう、取り組んでいきたい。」20代男性(西宮市・行政)

「都会と田舎の大きな差を感じた。高学歴社会が作ってしまった。若者が田舎から町へ出てしまう。結局田舎は限界集落化してしまう！田舎でのボランティア活動には無理(限界)がある。(若者がいない。いても興味を持たない。)田舎への定住化推進活動への支援等政府が本気で考えなければ日本はつぶれてしまう」60代男性(佐用町・地域団体)

「あるものを生かし、ネガティブなことを視点を変えてプラスにとらえることが、参画と協働の推進につながると、とても感じました。具体的には、子どもが少ない→充実した対応ができ村全体が家族。保守的→内部のつながりが強い。高齢者が多い→知識が豊富。」永菅裕一(市川町・NPO)

「みなさん、日常生活と仕事との両立はどうされていますか？両立はあきらめていますか？」40代男性(佐用町・行政)

「立ち位置を定め、地道に活動して進めたい。疲れない程度に活動します。」清水昭男(南あわじ市・地域団体)

「意識の高い人が多くて刺激になりました。」山内延浩(丹波市・その他)

「行政職員として研修の一環として参加させていただきました。直接的な担当所管でないこともあり、事前の知識が乏しい中で、色々な立場の方の意見や具体例を聞くことができ、行政職員として気をつけないといけないことを教えていただきました。また、参画と協働に取り組まれている方々の思いに触れたことで、今後業務で関わる際にはこのフォーラムを受ける前より、その方々に近い気持ちで仕事ができる気がします。」30代男性(川西市・行政)

「消費者のリテラシーが、地域企業やNPOのプロダクトサービスをキティするという事を踏まえ、価値あるモノ・コト・ヒトに正当な対価を支払うことが大事だと思います。」中野広夢(加古川市・その他)

「改めて、ボランティアをサポートする団体やコーディネーターの専門性が低いこと、そして中間支援団体の機能不足を感じました。草の根的な活動を自主的に行う方々への支援システム、また活動を行いたい人々へのマッチングなど、コーディネート機能を強化することが必要と考えます。(活動している人々自身がコーディネーターとなる⇒中間支援の機能)これからの時代で想定される、多様性と自由の中で、参画と協働の形を先回りしてつくらなければならないと感じました。」30代男性(神戸市・地域団体)

「とても勉強になるフォーラムでした。今後、実行に移していきます。ありがとうございます。」30代男性(猪名川町・一)

「食堂・弁当屋を通じて精神障害者の社会復帰や就労支援をしています。福祉に理解があり、調理ができる人、あるいは調理をやってみたいという福祉畑の人、という人をスタッフとして集める難しさを感じております。協働していける場所があればと感じています。」松本純一(明石市・NPO)

「意見交換で出された課題は1つ1つ少しずつ解決されて、本当の意味で参画と協働が進むことを願っています。」40代女性(尼崎市・NPO)

「地域の活動に多少疲れているときに、皆さんののはつらつとした報告を聞いて元気が出てきます。」60代男性(西宮市・地域団体)

「『横につながる』『コーディネーター』の役割…いろいろありますが、『主役』は市民で、その時その時変わってもよいと思います。『その時』は、いつ誰に言われるかわかりません。参画と協働を広げるには、市民それぞれの自覚と自立が必要だと思います。こうした場に、多くの人に参加する、参加できなくても知ることが重要とあらためて思いました。」50代女性(神戸市・その他)

「地域自治は、いかに個人の意見を吸い上げ反映させていくかが永遠のテーマであり、今後もこれを実現していく機会をつかっていきたい。」70代男性(加古川市・地域団体)

「行政職員1人1ボランティア、行政職員である前に1住民であることの認識。行政の地域づくりへの関わり(上から目線ではなく)の良好なところは地域が元気。参加者の地域性の違い認識。」60代男性(佐用町・地域団体)

「地域振興をしていくのは、決断と覚悟が必要だとわかった。自分がぶれたら周りの人たちを巻き込むことはできないと感じました。逆に自分が覚悟できたときは、周りの人たちがついてきてくれて、意図できない良い現象が起きると思いました。」40代男性(神戸市・NPO)

「色々な実績を持たれた人々が集まり、多様な活動性かを知ることができ、いくつか得るものがあった。基調講演は予想外の実例を示していただいて有意義であった。」60代男性(姫路市・地域団体及びその他)

「少子高齢社会の現状は、誰もが認めるところで、行政だけでは地域の諸施策は達成できず、民間の力が不可欠である。行政は建物の中にとどまらず、また、これまでの慣習や実績にとらわれず、今達成すべき課題の本質を掘り下げて理解し、民間も行政の組織や仕組、制約を理解しつつ課題解決できる妥協策を見出すフレキシブルな施策が必要だと思う。」森信行(芦屋市・NPO)

「市民参加で課題解決することに加えて持続可能なコミュニティビジネスの発想により、様々な事例が議論されました。市民活躍時代のスタートを感じました。」60代男性(養父市・地域団体)

「高齢者に対する生活支援サービスのビジネス化について、どの地域においても大きな問題である。一人暮らしの高齢者が安心して生活していくことが必要。今までボランティアを、無料では続かない。受ける側も負担していくことが継続と思う。最低賃金の負担で行っている他、色々苦勞もする中で継続されている事、素晴らしい取組と思いました。地域資源の販売ルートの開発で生産者に地域のブランド品他農産物を受け入れて農家の皆様とともに利益を出すビジネスに結びつけた事、有機肥料を利用(購入いただく等)で安心していただける野菜づくり、地域と都市をつなぐ役割によりビジネスにつなげている(売れる地域資源の販売)」平井良(佐用町・地域団体)

「今後、IT企業との協働の必要性も高くなると思う。(自動走行コミュニティバス、地域電子通貨など)ぜひ次回は、今まで参加していない業界の方にも参加いただきたい。」長峰謙(加古川市・NPO)

「実践活動している人との意見交換も大切ですが、県内の高校生や大学生など若者にも知らせ、参加を呼びかけてほしい。新たな契機となるフォーラムとなることを強く期待する。」70代男性(佐用町・地域団体)

「交流できる場を設定されることは参加者にとって役立つと思います。(フォーラムの記録のURLを参加者に周知すべき。)」60代男性(明石市・一)

「人と人との繋がり調整役が、中間支援や団体の事務局の役割であるということを学びました。“楽しい場づくり”ができるよう日々勉強していきたいと思います。」20代女性(加古川市・NPO)

「様々な地域の事例を知ることができた。また、兵庫で活動される方の姿をみて勇気や元気が出ました。」20代女性(明石市・NPO)

「地域の活動、ボランティア活動のあり方は、きっと変化していくのだと思うけれど、みんな自分のまちで生きていく、みんなが支え合うということは、これからもずっと変わらずに続いていくことで、みんなに役割があるということを思いながら、これからもまちづくりに携わっていきたいです。」50代女性(西脇市・地域団体)
